

# 田中研新聞

第73号

2019年  
8月8日発行

2019年8月8日号  
甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行  
http://carnation.is.konan-u.ac.jp  
編集責任 田中雅博

## 新ゼミ生ようこそ！

### 夏休みは後期に向けた準備期間でもあります



#### 何かの「縁」です

ゼミ配属説明会から約1か月、結構長い時間をかけてゼミ配属されます。知能情報学実験及び演習(いわゆる、プレゼミ)で、3つの研究室の実験を体験し、さらに、ほぼ2週間の間、多くの学生たちが、直接教員のところに行つて、話をし、最終的に全研究室に順位をつけて希望票を提出するというのが当学部のゼミ配属の方法です。今年話に来る学生が多いと思つていたら、やはり希望もたくさんあります。学生の希望が集まらなければ、あまり希望しない学生たちが入ってくるわけで、我々としては、希望する学生が来るに越したことはありません。そういう意味で、まず、学生に選択権があります。次に、たくさん第一希望があつたら、なんらかの基準に基づいて人数調整をするわけで、我々にも学生の後に選択権があります。

は、私の生き方でもありません。皆さんは、私よりも慎重派でした。皆さん、全員私に会いに来ましたね。私も、今回は選択をしましたが、その結果を後悔することはしないつもりです。困ることはあるかもしれませんが、その時は、それをばねにして、自分の成長が見込めます。皆さんも、自分の選択に自信をもつて、常に前向きに進んでください。ここまで来たら、何かの縁です。

人生は、大きな選択を何度かします。多分、最も大きな選択は結婚相手の決定でしょう。その次には、就職、大学、ゼミ、・・・といった選択があるので、ね。いくら慎重に選択しても、選択に失敗することもあれば、何も考えずに決定してしまうこともあるわけで、だから人生は面白いとも言えます。私は、こうした選択で、あまり迷つたことがありません。直感で一発勝負というのがほとんどです。これは

りがいのある仕事という幻想」というタイトルの本が並んでいます。隣の芝は青いとか、青い鳥症候群という言葉を聞いたことがあるでしょうか？なければもつと勉強してください。

自分がどういう仕事に向いているかわからない、という悩みのある学生がよくいます。確かに、それがわかれば苦労しませんね。皆自分が何に向いているかなんてわからないんです。そのため、キャリア科目がいくつか設けられています。基本を学ぶことは重要です。しかし、そういうことばかりしていても、多分いつになつても満足できる就職ができるなんてことはないでしょう。私の目の前の書架に「キャリアアポロノは人生の無駄だ」とか「や

#### アルバイトの功罪

最近の学生はアルバイトが忙しいといひます。確かに、家計の中で学生に仕送る金額は年々減少しているようで、その分皆さんはアルバイトが必要なのかもしれません。

アルバイトをしている人は、それを自分に役立つようにしませんか。仕事の手順や割り振りなど、一工夫できることはどんなアルバイトにもあるのではないのでしょうか。これは、皆さんの就職活動の際にも十分PRになります。

#### 理系を活かす

ジョブサリサーチなどで学生が書いたものを見ると、自分は理系にきたことを後悔している、文系として就職したいというような記述を見ることがあります。

皆さんはどうですか。いま、社会で求められているのは、まさに理系の人です。それは、理系の人にはかきえないものを持つていて、許されるなら、アルバイトは最小限にして、ここでしか得られない素晴らしい学習環境である、図書館や電子ジャーナル、iCommons、また、研究室での自由な研究環境を満喫してほしいと思います。大学の自由なネットワーク環境は会社に入ったら、決して同等な自由度はありませんし、そもそも、ソフトを自

そのうちの二人はまさに君たちの先輩です。これから人工知能がもつともつと身近になると言われていて皆さんもそう思っているようですが、人工知能をものにするのはまさに君たちでしょう。世間から見たら、甲南大学でいま、人工知能関係を卒業研究にできる立場というのは、喉から手が出るほど欲しい環境だと思えます。

長い人生、仕事が変わりたくなることがあるかもしれません。ほかの会社に行っても、仕事があるのは理系です。退職しても、何かやりたいことを見出せるのは圧倒的に理系でしょう。このように、皆さんは圧倒的に仕事に有利なポジションに立っています。しかし、それだけでは、「オタク」と大きな違いはないかもしれません。そこで必要なのは、人間力です。

#### 人間力を鍛える

私は、修士を出た後、いったん会社勤めしました。島津製作所という会社です。新入社員のこと、社長はもちろんのこと、専務とか常務などの役員は雲の上の人のように感じていました。ある日、荷物をもって、裏口の手動扉からドアノブを回して建物に入ろうとし

理系という、オタクとイメージがあるのはなぜでしょうか。それは、技術の世界に逃げ込んで、対人関係を構築することを怠るからではないでしょうか。私は、修士を出た後、いったん会社勤めしました。島津製作所という会社です。新入社員のこと、社長はもちろんのこと、専務とか常務などの役員は雲の上の人のように感じていました。ある日、荷物をもって、裏口の手動扉からドアノブを回して建物に入ろうとし

ていましたが、荷物が邪魔になつてなかなか開きませんでした。そこにたまたま通りかかった専務が、ニッコリしてドアを開けてくれたのをいまだに覚えています。

「一般に「偉い」人ほど、だれとでもコミュニケーションをとるのが上手で、優しいです。そういう人は、決して人のやることを汚い言葉で罵ったり、乗物に乗るときに我先に乗ったり入口に走りこんだりしません。掃除の人が困るようなごみの捨て方をしたり、下の人に粗雑な言葉で命令したり、車の窓から缶を捨てたりしません。ドアを開けて人を先に通し、ベビーカーで乗物に乗降するときに困っている人に手を貸したり、最後にニコツとしてくれます。マンシヨンのエレベーターでも、いつも声をかけてくれるのはこういう人間力というのではないのでしょうか。

#### 基礎学力を増やす

皆さんは本を読みますか。人の講演を聞きませんか。基本的には、勉強は自分でしなければなりません。つまり、書かれているものを読み、また、最近の動画で公開されているものも増えていますから、そういう講演などを聞いて自分ものにする必要があるのです。

今が皆さんの基礎知識をつける好機なのです。忙しくなつたらそれどころではなくなります。自分で興味を持つて本を大体1週間に1冊くらい読むことです。私はそれくらい読んでいます。それから、新聞を毎日読むこと。これは就職対策でもあります。

TED講演というのがネット上にあり、非常に役に立ちます。英語での講演です。英語のリスニングの勉強にもなります。字幕があることが多いので、可能なら英語の字幕を選んでください。

#### 常に課題を持つ

皆さんは「暇つぶし」をすることがあるでしょうか。私は、ここ20年以上、つぶす暇があつたことがあ

りません。いつも、時間があればやるべきことを5個以上持つています。この新聞を作るのもそのうちの1つです。

ほぼ毎月1回、新聞の記事を考え、集め、編集し、発行するのは、決して楽でもありません。しかし、これを6年も続けてきました。学生が編集委員をしてくれた時かなりあります。やってくれた学生がいないときは、私が作ります。自分ですぐにでもできることばかりしていても力はつきません。何か、新しいことが含まれていることを依頼されたら、積極的に引き受けることです。それにより、自分ができることが増えていきます。そのために、暇などなくなるでしょう。





# 岡田君、集中講義でゲストスピーカー

## 「ジョブリサーチ」で8月2日

今回、ジョブリサーチという集中講義でゲストスピーカーとしての依頼をいただき「社会人1年目の話」と題して講演を行わせてもらいました。良くも悪くも正直なことを話したので、ある意味刺激的な講演内容になったのかと思います。また、最後の5限目の時間だったということもあり、疲れていると思われる中、様々な発言をしてもらいました。準備していた内容に関しては出し切り、更に追加で色々なことを発信できたかと思うので、個人的には母校に少しでも恩返しができたのかと思います。講演の中でも何度か「自分にあったやり方を選択してほしい」という言葉も真理で、講演を行った内容ですが「合う」「合わない」は人

それぞれですので、その部分の取捨選択はしてほしいと思います。受講者のレポートを見てみると、思いは伝わっていたので、自分にとって一番のやり方を選択してもらいたいなと思います。ちなみに、講演の際には「言語の勉強」に関して、別に会社に入ってからも間に合うという話をしました。即戦力として期待されるような会社の場合はその限りではありません。インターンに行ったりして実力を買われて鳴り物入りで、というケースの場合はやはりその部分も期待されると思います。

さて、講演の話はこれくらいで私事にはなりませんが社会人生活も2年目になり、前回の新聞の投稿から変わって何をいくつかご紹介いたしますと、まずは扱えるようになった言語の数がいくつか増えました。こういうものは数が増えているというわけではないのですが、引き出しを増やすという意味と、業務内でやる必要があった部分で勉強しました。C#, Ruby, VBA, UWSCと講演の時は記載してしまいましたが、C#は研修でやって、そのあとは自分でやりました。Rubyは記事でやりましたが、C#は研修でやって、そのあとは自分でやりました。Rubyは記事でやりましたが、C#は研修でやって、そのあとは自分でやりました。

ですが、今の業務ではコレがないのは考えられませんが、実際、やってみると1日触れば一通りのことはできるようなものだと、圧倒的情報量で、やりたいこと大体かいています。コマンドプロンプトを呼び出すことも、結果を得ることも簡単で、フォームなども使えてしかもデータを集計することもできる。場合によってはACCESSや他のOffice製品との連携もとれるとあって、こんな便利なものを使おうと思わなかったのが非常に悔やまれます。(Koroのログの集計とかも簡単にできた今更ながら思います)。

言語とは関係ないですがPowerBIというMicrosoftの製品も最近使用していますが、こちらはビッグデータ解析に使えますので、そちらもおすすめです。UWSCというまったく聞きなれない(というか言語としては広く認知はされ

ていない)ものに関しても取得しました。こちらは、いわゆる自動化のためのツールを指すのですが、Excelマクロのように、実際に操作したものを再生できたりします。これだけだと、単なる再生ツールで、座標なども同じところに移動してクリックのように動かしますが、このツールがすごいのは、高度な保存を選択しておくことでウィンドウのキーやハンドルを取得しての操作になります。要するに、画面のどこにいても一致するものを探して操作するようになります。保存してもいいのですが、コードをかいてそれを再生させることもできるので、人力では少し難しいような動作でもあつという間に作成できます。これまたもつと早く動いていけばKoroの起動時の自動化が圧倒的に楽だったと感じました。1つの場所にとどまらないメリットとして、こういったよその文化を学べ、そこから自分に合ったものを選択するというのは、自己研鑽には非常にいいと感じました。是非、今後積極的に忘れずに精進していきたいと思えます。(岡田航大)

きたりします。これだけだと、単なる再生ツールで、座標なども同じところに移動してクリックのように動かしますが、このツールがすごいのは、高度な保存を選択しておくことでウィンドウのキーやハンドルを取得しての操作になります。要するに、画面のどこにいても一致するものを探して操作するようになります。保存してもいいのですが、コードをかいてそれを再生させることもできるので、人力では少し難しいような動作でもあつという間に作成できます。これまたもつと早く動いていけばKoroの起動時の自動化が圧倒的に楽だったと感じました。1つの場所にとどまらないメリットとして、こういったよその文化を学べ、そこから自分に合ったものを選択するというのは、自己研鑽には非常にいいと感じました。是非、今後積極的に忘れずに精進していきたいと思えます。(岡田航大)

教科目について  
ジョブリサーチは、社会で活躍されている講師を迎えて、そのお話を聞く講義です。今年は、4年目になる、様々なところで活躍の森本登志男先生、今年初め、甲南大学ご出身のLIXIL部長の岩崎磨先生、そして、就職2年目の岡田君にお願いしました。3名ともお話が非常に上手で、もちろん、話の中心も大変充実しており、学生諸君のレポートを見て、大変満足してくれた様子が伝わってきます。

学生諸君は、啓発されたら、それを自分の次の行動に移すことが重要です。感動したのをそのままにしておく、結局何も聞かなかつたのと同じになります。おそらく、印象に残った言葉を書き記すなどの方法が良いのではないかと思います。(田中)

# 対外予定

8月20日(9月16日)ナレッジキャピタルで、「来場者カウンター」及び「ラジオ体操探点システム」を展示。

8月29日(30日)東京ビッグサイトで、「元気な人も病後の人も姿勢や動きを簡単に計測して健康維持」というタイトルで展示。

9月4日 琉球大学で、「電気学会電子・情報・システム部門大会」に大西、岩崎、田中が参加、論文発表。

1月28日 神戸市シルバーカレッジで、「高齢者の生活と人工知能」をテーマに90分講義。

# 編集後記

盆休みの前に完成させようと、最後まで焦りましたが、ようやく8月号ができました。今回は、1面は新ゼミ生への私の思い、2面はここ1か月に行われた、当研究室卒業生に関するニュースです。

今年は、梅雨が明けるまでは涼しい日が続く、久しぶりに冷夏になるかと思つていましたが、梅雨明けと同時に灼熱地獄の到来です。

今、南の海上に発達中の台風9号と10号が日本に向かっていて、特に心配されるのが10号で、進路が少し西寄りになってきたので、西日本直撃かもしれない。また、その時期がちょうど盆休みになるので、お盆に帰省をする人の足が大幅に乱れるのではないのでしょうか。そういう私も、娘家族2組が無事にやってこられるのかどうか、大変心配です。

「常に備えよ」。甲南生ならだれでも知っている言葉です。そう思いですが、どうしようもない時も。

# 高濱知也君の結婚式に呼ばれました

平成23年度修士課程修了



7月20日、高濱知也君(平成23年度修士課程修了)の結婚式に京都まで出かけました。高濱君は、学生時代は、

画像処理をしていました。カメラの動きでぶれた画像を、動きの推定と同時に画像を復元するという研究です。非常によく研究された

論文で、私にとって最も強く印象が残っている研究の一つです。このときの研究は国際会議に発表したところまで進めたのですが、M

ATLABがネットワークとなり、現在、私がPythonで作る変えようかと思つているところです。

高濱君は、ある会社のインターンシップからその会社に就職、その後、本学の研究員などを経て、現在堀場製作所に勤めています。本学の研究員の時には、Koro関連のプログラムなども作ってもらい、短期間ではありましたが、非常に大きな貢献をしてくれました。堀場製作所に内定したと聞いた時には、私のそばからいなくなることへの残念さも大きかったのですが、彼の能力が評価されたことへの喜びも大変大きかったのを覚えています。

その後、ご縁があつて現在の奥様とお付き合いがあつて、結婚に至ったとのこと



結婚式、披露宴にはお二人の職場の方もご参列になり、披露宴では、高濱君の職場の上司や同僚の方々、また、学生時代からのアルバイト先の経営者の方と同じテーブルになり、田中は乾杯の発声もさせていただきました。

彼と同期で、ともに田中研で頑張ってくれた桑田君も出席しました。もう一人来る予定と聞いていたので

ですが、お仕事の都合で来られなかったのは大変残念です。

高濱君は、今は、生産部署にいて、プログラマーの方に仕様を伝えたり調整したり、改善方法を相談するのがお仕事とのことでしたが、仕事が早いと大評判でした。プログラムを作つて見せたら、きつと同僚の方はもう一度驚かれるでしょう。ぜひとも、甲南大学で



(高濱君ご了承の上、本記事と写真掲載)